

手形交換業務の合理化に関する提言（概要）

1. 現行の手形交換業務の合理化

手形交換所の統廃合のさらなる推進（交換地域の広域化）について

交換地域の拡大、交換所の統廃合推進の必要性を改めて認識し、更に統廃合を促進するための方策等について検討することを提言する。

（趣旨）手形交換所は、交換事務の合理化ニーズや交通事情の改善を背景に、年々、統合が進められてきているが、未だ全国に約 500 の交換所が存在している。更に統廃合を促進することができれば、早期の資金化や業務の合理化等が図られることが期待できる。

その他交換証券の規格統一化促進 / 振込等への誘導について

その他交換証券（手形・小切手以外に交換所で交換される債券や利札などの証券）の規格統一化の推進、および振込など他の手段への誘導を推進することを提言する。

（趣旨）その他交換証券の中には規格様式が定められているものがあるが、現状ではそれに準拠していない証券も多く手形交換にかけられている。これらの規格様式の統一化または振込等の電子手段を用いることを推進することができれば、処理の迅速化・合理化等が図られることが期待できる。

手形・小切手の規格様式の見直し（MICR 印字の見直し）について

手形・小切手の記載事項や MICR 印字の内容の見直しにより、金融機関の事務合理化に資する点がないか検討することを提言する。

（趣旨）手形・小切手券面に金額数字記入欄や、印鑑欄を設定することができれば、OCR 処理や印鑑照合事務の自動化等により処理の迅速化・合理化等を図ることが期待できる。また、MICR 印字の内容を見直し、他の金融機関に交換業務を委託する金融機関の情報を入れることができれば、受託銀行の変更の場合の対応が容易になるなど処理の迅速化・合理化等を図ることができ、将来、チェック・トランケーションの検討を再開した場合において対応が容易となると考えられる。

MICR 印字...手形や小切手の下部にコンピュータ処理のために磁気インクで印字された文字。

2 . 電子手形・小切手

IT化の進捗に伴う電子商取引の進展や他業態における電子手形に関する取組み等を注視していくとともに、必要に応じて全銀協としての取組みについて検討することを提言する。

(趣旨)チェック・トランケーションでは手形・小切手現物の存在を前提としていたため、イメージ取得や伝送等の設備が過大となる等の問題があったが、電子的な記録自体に手形・小切手に類似した機能をもたせることにより、こうした諸問題を克服できる可能性がある。現物を前提としないため、顧客にとっても、印紙税等の手形発行費用にかかるコスト削減や、債権管理業務の効率化、手形管理業務の合理化を図ることが期待できる。

以 上